

▶ スコアボード ◀

ヨコハマビーチフェスタ2018

金沢 海の公園

7月29日 一般男子、一般女子の部

8月4,5日 小学男子、小学女子の部

第57回 日朝親善サッカー大会

8月18日(土) ミッツ陸上競技場



発行 一般社団法人横浜サッカー協会
編集 同 広報委員会
〒222-0033
横浜市港北区新横浜2-6-3
DSM新横浜7F
TEL(045)474-4315 FAX474-4316
http://www.yokohama-fa.or.jp
印刷 神奈川新聞社
〒231-8445 横浜市中区
太田町2-23
TEL227-0739 FAX227-0785

第45回 横浜市春季少年サッカー大会

優勝

U-12

あざみ野FC

U-8

バディーSC

U-10

バディーSC

少女の部

金沢ガールズ



春季少年サッカー大会表彰式



U-12優勝 あざみ野FC



U-10優勝 バディーSC

第45回横浜市春季少年サッカー大会は、4月15日に開幕し、各クラスで予選リーグ、決勝トーナメントを行い、6月24日の決勝戦で約3か月に亘る熱戦の幕を閉じた。

U10、U8は各予選ブロック2位までのチームが、U12は横浜地区JFAリーグ、各ブロック1位のチームが決勝トーナメントに進んだ。

U12、U10については上位6チームが県チャンピオンシップ大会出場を決める予選会を兼ねている。

その結果、U12決勝戦では横浜港北SCとの接戦を制したあざみ野FCが優勝した。

U10決勝戦はSCH・FCと点の取り合いの末バディーSCが3連覇を果たした。

U8もバディーSCがあざみ野FCとの接戦をものにし優勝した。少女の部では、金沢ガールズが僅差で一本松SCを下し2連覇を果たした。

☆3位決定戦	IFCF 1-1 SCH・UTURO(19PK18) FC
☆決勝戦	バディー 3-2 あざみ野 FC
◎U10	☆3位決定戦
あざみ野 FC 3-0 カルパ FC	☆決勝戦
バディー SC 3-2 SCH・FC	◎U8
☆決勝戦	☆3位決定戦
バディー SC 3-2 SCH・FC	あざみ野 FC 2-1 横浜港北 SC

優勝チーム キャプテンのコメント

U-8 バディーSC 金子 航大君

ぼくたちは、ゆうしようするまでたくさんのおしをしてくれて、強いチームになりました。小川先生が作せんを考えたばかりをうしんじてくれたからチームは強くなりました。

U-10 バディーSC 吉岡 杜萌輝君

ぼくは、この大会で必ず優勝したかったので、とてもうれしいです。

U-12 あざみ野FC 笠口 怜乃君

「打倒バディー」としてチーム一丸となって練習をしてきた。結果、優勝することができた。この優勝は試合に出た人ががんばったからだけではなく、試合に出なかったメンバーや応援してくれた人、運営してくださる人がいたからこそ成し遂げられたことと思う。この優勝というのに満足せず、もっと高い頂点を目指していきたいと思う。

女子の部 金沢ガールズ 佐藤 衣晏さん

私たち金沢ガールズは、日ごろから基礎 足技などコーチに教えてもらい、練習をしています。そのおかげで、春季大会で優勝できました。すばらしい結果をのこせたので、コーチと仲間に感謝したいです。

内田 渉会長ら再選

平成30年度定時総会開く

平成30年度定時総会が6月25日、かながわ県民センターにおいて開催され、平成29年度事業報告、平成29年度決算が審議され、原案通り可決された。

今年度が平成30、31年度役員改選時期であり、役員、理事、監事の選挙が行われた。

総会後の理事会で、会長に内田渉氏、副会長に加藤範義氏、専務理事に鈴木栄一氏が再選された。そして、三役以外に理事11名、監事2名が決まった。

平成30、31年度役員・理事は次の通り。

専務理事	鈴木 栄一
副会長	加藤 範義
会長	内田 渉
理事	石井 和則
理事	岩澤 明彦
監事	東 志信
監事	守人 友三
理事	植木 裕司
理事	忍足 充
理事	小林 仁
理事	小山 次郎
理事	白倉 常夫
理事	鈴木 康司
理事	田島 隆道
理事	野口 隆
理事	廣幡 素道



U-8優勝 バディーSC



少女の部優勝 金沢ガールズ

ハーフタイム

6月14日から始まった2018年ワールドカップ・ロシア大会も一発勝負の決勝トーナメントまで進みました。今回の大会前には日本国内では電撃的な監督交代劇が話題になりました。ヨーロッパでもスペイン代表監督が大会開催前日、しかもポルトガルとの対戦2日前に交代となる衝撃的な事がありました。しかし、試合内容は3対3の引き分けでファンを楽しませてくれました。監督の解任が話題になった日本代表とスペイン代表、いずれもラウンド16に残りました。何が起るか分からないのがワールドカップと言われている通り、世界ランキング上位のチームが各グループリーグでは苦戦を強いられ、見事に決勝に進み、16に駒を進めています。さすがです。ところが、驚きもありました。優勝候補の筆頭、ドイツチームがグループ最下位で脱落です。日本を含めたH組の場合も、下剋上状態になっています。如何に日本チームが健闘しているかが窺えます。その日本代表もグループ最終戦で苦しい状況に追い込まれましたが、結果は決勝トーナメントの進出が決まりました。本紙の発行される頃は、ベスト4が明らかになっている事でしょう。我々は、寝不足の目をこすりながらも戦う選手達を応援するのみです。ところで、皆さんはロシア大会のマスコット「ザビワカ」をご存知でしたか。何者でしょう？...日本のJリーグチームにも仲間が在籍しています。(T・M)

横浜少女サッカーからワールドカップへ

FCすすき野レディース出身
日テレ・ベレーザ 清水梨紗選手



©TOKYO VERDY

FCすすき野レディース出身
日テレ・ベレーザ 清水梨紗選手

楽しみながらサッカーを……

2019年女子ワールドカップ(W杯)フランス大会出場を決めた今年の2018 AFCアジアカップ(ヨルダン大会)の立て役者の一人に、サッカー少女時代を横浜で過ごした選手がいる。なでしこジャパンの清水梨紗選手(日テレ・ベレーザ所属)だ。

清水選手は、小学校1年生の時に「サッカーをしていた二つ年上の姉の影響で」当時

住んでいた神戸市内の神戸コスモFCに入団し、ボールを蹴り始めた。2年生の時に横浜市に転居すると、地元のFCすすき野レディースに入団。小学校を卒業するまでの5年間、同チームでプレーした。上級生になるとチームのエースストライカーとして、カトレア杯少女サッカー大会でチームを優勝に導くなど目覚ましい活躍を見せた。

2008年の第16回カトレア杯少女サッカー大会で優勝した際には、弊紙Breeze第39号・12月1日号に「楽しみにしていたカトレア少女が今年もまた。(中略)接戦の末、私の左足のシュートが決まり優勝できた。私はうれしい気持ちでいっぱいだった。(以下略)」というコメントを寄せている。プレーに対する闘志とすばらしい技術力の片鱗を少女時代から見せていた。

少女時代を振り返って、清水選手は「コンディショニングの良いグラウンドではなかったが、ドリブル、パス、基本技術の練習を一生懸命、そして楽しみながら続けてきました」と振り返る。チームのコーチを務める父親が、指導者として、また良きパートナーとしても清水選手を支えてきた。日本女子代表にまで上り詰めた今は「私のサッカーについて父は何も言いません。言ったら喧嘩になるでしょうね」と、

父親は一番のサポーターとして温かく支えてくれている。2009年、12歳のときから日テレ・ベレーザの下部組織である日テレ・メニーナに入団。「ゴールキーパー以外はすべてのポジションを経験しました」と、様々な経験を積み、プレーの幅を大きく広げていった。現在はディフェンダーとして、粘り強くアグレッシブな守備を持ち味としている。

2010年にU-14日本女子選抜に選ばれて韓国遠征を経験。2011年にはU-16日本女子代表の一員としてAFC U-16女子選手権(中国・南京市)に出場した。その後、U-17日本代表、U-20日本代表と各年代の代表チームに名を連ねて数多くの国際舞台でプレー。2013年からは日テレ・ベレーザに昇格し、1年目からなでしこ1部リーグデビューを果たし、現在は欠かせぬ戦力としてチームの守備を支えている。

今年のワールドカップ・フランス大会の予選を兼ねたアジア・カップで日本女子代表

に初めて選出され、世界のトップレベルを体感した。「世界の選手に対して、体格的には負けたとしても、技術的なところで勝てたときは手応えがありました」と、自身のプレーが世界で通用する確かな感触を得て帰国した。これからは天性の才能にさらに積み重ねた技術を武器に活躍してほしい。

当面の目標として「2019年女子ワールドカップに向けて、日本女子代表に選ばれること」を掲げる清水梨紗選手がこれだけ輝かしい経歴を残し、サッカーを続けてこれた要因は、「いつも楽しみながらサッカーをしてきたこと」です。インタビュの直後から始まるチームの厳しい練習の前でも笑みを見せながらも、純粋なサッカーへの愛情を語った。そんな彼女だから、最後に後輩たちへのメッセージを依頼された時も「横浜のサッカー少女の皆さんも、楽しんでサッカーをしてほしい」と答えたのは、自然なことなのかもしれない。

港北区選抜が優勝

第21回横浜市区選抜大会(マリノス杯)



横浜18区の選抜チームによる、第21回横浜市区選抜少年サッカー大会(横浜F・マリノス杯)が3月31日の予選リーグから始まり、4月8日の決勝・3位決定戦で幕を閉

じた。

予選リーグは18区を3チーム6ブロックに分け、リーグ戦を行い、ブロック1位とブロックA、B、Cの2位最上位チームと、ブロックD、E、Fの2位最上位チームの各々が決勝トーナメントに進出し、8チームによる決勝トーナメント戦が行われた。

4月8日、しんよこフットボールパークで3位決定戦と決勝戦が行われ、3位決定戦は金沢区選抜が3-0で西区選抜を下し3位を決めた。

決勝戦は、準決勝をPK戦で金沢区を下した港北区選抜と、4-0金沢区、1-0西区と下し勝ち上がった港南区選抜との戦いで、港北区選抜が粘り強い守備と果敢な攻撃力で、港南区選抜を2-0で制し優勝した。

大豆戸FCが制覇

第53回横浜市長旗争奪ジュニア大会



平成30年度第53回横浜市長旗争奪ジュニアサッカー大会は6月24日、玄海田公園で決勝戦が行われた。この大会は、横浜市の中学校並びにクラブチームのナンバーワンを決める大会で、中体連からは156校、クラブチームからは24チームが参加した。

決勝戦は大豆戸FC対クラブアトロジュニアユースのクラブチーム同士の戦いとなり、激しい点の取り合いとなり

り大豆戸FCが5対3で制し、市長旗を争奪した。

選手を誇りに思う
コーチラモス・アビオノ氏

大豆戸FCに新たなタイトルをもたらすことができ大変嬉しく思います。

優勝を勝ち取った選手たちを誇りに思います。今後も更なる飛躍を遂げられるよう日々精進していきます。

もっと強いチームに
キャプテン 池田健人君

今回の市長旗杯では、神奈川県制覇に続いて横浜市も制覇し、もう一度大豆戸FCの歴史を塗り替えることができても嬉しく思います。

これからリーグ戦や高円宮杯などもあるので、これからの試合に向けてもっと強いチームになるために頑張りたいと思います。

29年度
リーグ優勝チームを
表彰
社会人委員会登録総会開く

5月12日、横浜西公会堂で平成30年度社会人委員会登録総会が開催された。

平成29年度横浜市民リーグ優勝チームの表彰、ブロック幹事決りが行われた。最近では率先して幹事を引き受けてくれるチーム代表もいて、頼もしい限りだ。すべてのチームの協力がなければリーグは終わらない。

平成29年度横浜市民リーグ

法人会員一覧			
横浜マリノス(株)		横浜食品開発(株)	
神奈川新聞社		JFE東日本ジーエス(株)	
(株)横浜シミズ		(株)横浜アーチスト	
		(有)フリースタイル	

スーパークイズ
大会日程

6月23日に開催が予定されていた平成30年度第1回キッズ大会が11月17日(土)に延期となった。

キッズ大会の開催日は次の通り。

▽平成30年	9月22日(土)
▽同	11月17日(土)
▽平成31年	2月23日(土)

優勝チームは次の通り。

1A	YOKOHAMA
1B	FIFTY CLUB
1C	ICOMOJA
1D	MAKS
2A	NPO Y.S.C.C.
2B	クラブアトロ
2C	SC Register
2D	かながわクラシコ
2E	FC ASANO
3A	over doing
3B	FC COMPARE